

令和3年度 指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	作州民芸館
(2) 指定管理者	所在地 津山市小田中1312-10 名称 城西まちづくり協議会 代表者 会長 高須 昌明
(3) 公の施設の所管部署	産業文化部歴史まちづくり推進室
(4) 指定期間	令和元年4月1日 ~ 令和4年3月31日
(5) 評価対象期間	令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日

2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	令和3年度実績	対R2年度	令和2年度実績	対R元年度	令和元年度実績
	来館者数 15,544人 貸室利用件数 72件	331人 -33件	来館者数 15,213人 貸室利用件数 105件	-8,720人 -74件	来館者数 23,933人 貸室利用件数 179件
(2) 事業の内容	①開館業務 ②貸室業務 ③自主事業 〔喫茶業務、販売業務、イベント関連業務（先達と行くおかげめぐり、オルゴールコンサート、野菜と魚の市、ワークショップ、城西雛めぐり等）〕				

3 収支の状況

(1) 収入 (指定管理者の収入)	令和3年度実績	対R2年度	令和2年度実績	対R元年度	令和元年度実績
	総額 15,461千円	-1,051千円	総額 16,512千円	1,213千円	総額 15,299千円
内訳	内訳		内訳		内訳
指定管理料	5,235千円	246千円	4,989千円	2,778千円	2,211千円
施設継続・再開事業助成金	千円	-20千円	20千円	20千円	千円
利用料金	130千円	-21千円	151千円	-32千円	183千円
自主事業（カフェ、物販）	9,943千円	-1,055千円	10,998千円	-1,653千円	12,651千円
雑収入	153千円	-201千円	354千円	100千円	254千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	令和3年度実績	対R2年度	令和2年度実績	対R元年度	令和元年度実績
総額 15,524千円	-1,024千円	総額 16,548千円	1,296千円	総額 15,252千円	
内訳	内訳		内訳		内訳
人件費	5,971千円	2,109千円	3,862千円	224千円	3,638千円
消耗費	239千円	-381千円	620千円	109千円	511千円
光熱水費	1,091千円	63千円	1,028千円	160千円	868千円
通信費	157千円	32千円	125千円	68千円	57千円
警備委託	172千円	千円	172千円	16千円	156千円
備品費	千円	-1,257千円	1,257千円	1,107千円	150千円
修繕費	千円	-18千円	18千円	-260千円	278千円
消防点検費	11千円	2千円	9千円	5千円	4千円
保険料	64千円	-11千円	75千円	71千円	4千円
会費	10千円	千円	10千円	-70千円	80千円
雑費	303千円	191千円	112千円	5千円	107千円
自主事業費（仕入れ、人件費、材料費）	7,506千円	-1,754千円	9,260千円	-139千円	9,399千円

4 総合評価結果

(1) アンケート調査等	城西まちづくり協議会定例会で意見を聴取し、「まちの駅運営会議」を設置し利用者の声を反映させる仕組みを作った。
(2) 指定管理者の自己評価	<p>カフェスペースの改修により喫茶コーナーの調理がしやすくなり、かねてから要望があったうどんの開発を行った。徳守神社にあやかり「とくもりうどん」と命名し、今後の利用増を期待している。地場の小豆と地元餅店の餅が入ったぜんざいは好評で名物の一つになってきている。カフェで弁当を食べる方が増え、地元の方以外の利用も増えている。</p> <p>販売事業については、地場農産物、農産加工品、パン、菓子類など地場産の商品が人気で、来館者が市内広域に広がっている。新しい商品の仕入れや開発は必須と感じている。</p> <p>イベントの実施、貸館利用について、コロナが落ち着いた時期を見計らってイベント、ワークショップができた。また、民芸協会のワークショップには市外からの参加もあり観光振興が期待できる。集まることを避ける状況のため、貸館事業は低調だった。</p> <p>インフォメーション事業について、1階の部屋を利用して城西地区の観光、民芸品の紹介などのビデオを流し始めた。「先達がいくおかげめぐり」の出発地に民芸館がなったことで多くの方に民芸館を知っていただく機会になった。案内、対応などスタッフの資質向上が求められる。</p> <p>コロナによる販売低迷が回復しないため、町内会長、若僧会、青壮年を入れた「まちの駅運営会議」を設置した。まちの駅の当初の目的の共有、お客様の声を反映させること、販売する商品の開発などを協議して今後の事業に生かしていく。「土産品の開発」も運営会議の課題と考えている。会議を始めたことで地元住民の利用が増えてきている実感がある。</p> <p>今後、建築物としての民芸館の良さを生かし、若い人のアイデアも取り入れてまちの駅の利活用促進につなげていきたい。</p>
(3) 市の評価	<p>令和3年度も新型コロナウイルスの影響により運営は厳しい状況であった。来館者数は前年比約102%となったが、貸室利用件数は前年比約68%で、収益も前年度に続き赤字となった。しかし、コロナ禍で制約が多い中、新メニューの開発に取り組み、津山民芸協会と協力してワークショップを開催するなど利用客の増加に向け、工夫しながら運営していた。</p> <p>貸室事業については、コロナ禍で利用が伸び悩んだが、今後は市内外の方に広く認知されるようWeb上での貸室紹介や予約受付などを検討し、利用促進に積極的に取り組んでほしい。</p> <p>城西重要伝統的建造物群保存地区の拠点施設として、地域はもちろん観光客にも満足いただけるよう、情報発信やスタッフの資質向上、民芸館ならではの企画を推進し地域の活性化に努めてほしい。</p>